

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：薬務水道費 目：薬務費

事業名 災害時医薬品等安定供給事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 薬務水道課 生産指導監視係 電話番号：058-272-1111(内3435)

E-mail : c11224@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 10,653 千円 (前年度予算額) 7,211 千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 源
前年度	7,211	8	0	0	0	0	0	0	7,203
要求額	10,653	15	0	0	0	0	0	0	10,638
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

大規模災害発生時に医薬品等の確保要請が市町村から県にあった場合、県は協定を締結する県医薬品卸協同組合や県製薬協会等に要請し、必要な医薬品等を調達することとしている。また、災害時に編成される医療救護班等への薬剤師の派遣を協定に基づき県薬剤師会に要請することとしている。

実際の災害発生時の医薬品等供給や薬剤師派遣について迅速・円滑に対応するために、医薬品等の流通備蓄量を定期的に把握する必要がある。

また、原子力災害時に必要となる安定ヨウ素剤及び希少疾病の予防や治療に使用される抗毒素は市場性に乏しいことから、緊急時に迅速に供給できるよう県において現物備蓄を行っており、その体制を維持していく必要がある。

(2) 事業内容

- ア 災害用医薬品等保有量調査の実施
 - ・災害時に供給可能な医薬品等保有量について卸組合や製薬協会等に委託して調査（年2回）を実施
- イ 安定ヨウ素剤の備蓄
 - ・國の方針に従い、ヨウ化カリウムゼリーの一部を更新（購入）
 - ・使用期限が切れるヨウ化カリウム及び单シロップの一部を更新（購入）

(3) 県負担・補助率の考え方

災害時の医療救護活動を迅速・円滑に実施するための取組であり、県が負担する必要がある。

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	12	業務旅費
需用費	10,422	安定ヨウ素剤購入費、事務用品購入
役務費	10	通信運搬費
委託料	209	災害用医薬品等保有量調査委託（県医薬品卸協同組合他）
合計	10,653	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県地域防災計画（一般対策計画）

第2章 災害予防 第20節 医療救護体制の整備

岐阜県地域防災計画（原子力災害対策計画）

第2章 原子力災害事前対策 第12節

(2) 国・他県の状況

国の方針に基づき同様の措置をとっている。

(3) 後年度の財政負担

今後も体制等を強化する必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

災害対策基本法に基づき、県民の生命を災害から保護するため、防災計画で定める医療救護活動を行うことは県の責務であり、緊急時に備え平時から県内の医薬品等の需給体制を整備しておかなければならない。

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
安定ヨウ素剤の備蓄（約57万人分）を継続する。
災害時に供給可能な医薬品等の流通備蓄量の把握を継続する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
① 安定ヨウ素剤の現物備蓄数量	(H23) : 0 (H24) : 約 9 万人分 (H25) ~ 約 57 万人分	約 57 万 人分	約 57 万 人分	約 57 万 人分	約 57 万 人分	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（記入欄）

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	医薬品等保有量調査を実施（年2回）し、災害時に供給可能な医薬品等の流通備蓄量を把握することができた。 注射用水、ヨウ化カリウムの全て、ヨウ化カリウム丸、ヨウ化カリウムゼリー及び単シロップの一部を更新した。
	指標① 目標：57万人分 実績：57万人分 達成率：100 %
令和 5 年 度	医薬品等保有量調査を実施（年2回）し、災害時に供給可能な医薬品等の流通備蓄量を把握することができた。 ヨウ化カリウムゼリー及び単シロップの一部を更新した。
	指標① 目標：57万人分 実績：57万人分 達成率：100 %
令和 6 年 度	医薬品等保有量調査を実施（年2回）し、災害時に供給可能な医薬品等の流通備蓄量を把握することができた。 ヨウ化カリウムゼリー及び単シロップの一部を更新した。
	指標① 目標：57万人分 実績：57万人分 達成率：100 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	災害時の医療救護活動を迅速・円滑に実施するための事業であり、県が主体的に実施する必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	災害時に供給可能な医薬品等の流通備蓄量を把握するために保有量調査を行っている。また、安定ヨウ素剤・ガスえそウマ抗毒素の備蓄について必要な数量を確保できている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	医薬品等保有量調査について、関係団体に委託することにより効率的に実施している。

(今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

医薬品保有量調査について、医薬品流通や各卸業者等の現状に即したリストを作成し、災害時に必要な医薬品数を確保できるのか把握する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
災害時に医薬品を迅速かつ円滑に供給できるようにするための事業であり、継続して実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	